問 仕事と介護の両立支援を求める
答 介護制度の相談窓口充実を図る

石原　壽朗 議員

仕事をしながら介護をする人は全国で291万人。

介護離職の軽減を

問 仕事と介護との両立が難しく離職する場合がある。離職者の多くは家庭内の話し合いだけで決断しており、行政への相談は敷居が高いように感じる。

スマートフォンなどを活用し、介護制度を利用した際のシュミレーションを気軽に調べられるようにしてはどうか。

答 町長 町ホームページが分かりにくいとの意見がある。見直しの中で、各種介護制度利用時の試算が紹介できるよう検討する。

問 介護離職を減らすため、企業の取り組みや国・県の制度に合わせ、町独自の取り組みが不可欠だ。

答 厚生部長 相談窓口の充実を図り、既存制度を最大限活用してもらうように努める。

問 団塊の世代が後期高齢者となるまで「あと10年」。積極的な予防に力をそそぐべきだ。

答 福祉課長補佐 気軽に参加できる介護予防事業に取り組んでいく。

※他に「新しい教育委員会制度について」の質問。

■憩いのサロン風景

問 小中学校に暖房器具の設置を
答 小学校低学年から設置していく

鈴木　一也 議員

全国的には学校施設の耐震工事が一段落し、次の事業としてエアコンの導入が増えている。本町では扇風機が付いたばかりである。

寒さ対策として暖房器具の設置を

問 全保育園にエアコンが設置されるが、小中学校はなぜ設置されていないのか。

答 教育部長 保育園では、園児は体も小さく抵抗力も弱いこと、体温調整が難しいことから熱中症対策としてエアコンの設置が進んでいる。

問 近隣市町の状況は。

答 教育部長 知多管内の小学校を中心に、暖房器具の設置が進んでいる。エアコンは平成27年度に阿久比町が1校に導入予定である。

問 町内の小中学校の普通教室に暖房器具を導入する考えは。

答 町長 学校、教室の状況にあわせた適切な暖房器具の設置を順次進める。

※他に「地域のつながりについて」の質問。

■教室に設置された暖房器具

加藤　美奈子 議員

問 難病支援に対し給付金制度を

答 周囲の動向を注視し調査・研究

平成27年度の特徴ある事業は

問 第5次武豊町総合計画に掲げる7つの基本目標に沿って、予算に反映させた主要な施策は。

答 町長 「ともに創るまち」に関する施策では、町民幸福度調査を行い、「安全に暮らせるまち」の施策では、全児童を対象にした防災教育を行う。

「ふれあいのあるまち」に関する施策では、地域交流センターの整備事業や、文化創造プランに基づく事業を推進する。

「子どもが健やかに育つまち」の施策としては、子育て短期支援事業や、各小中学校に通常学級生活支援員を配置する。

その他の施策においても、ヘルプカードの作成や、リユースステーション事業の実施、知多武豊駅東土地区画整備事業などがある。

生活支援として給付金制度の実施を

問 難病医療法の施行により、医療費助成の対象が、大きく拡大されたが、支援の対象や内容はまだまだ十分とはいえない。

そこで、難病患者の生活支援として給付金制度の実施を望むが。

答 厚生部長 難病支援の充実を図ることは、大変重要な検討課題であるが、現在のところ考えていない。

今後、国・県・近隣市町の動向を注視しながら、調査・研究していく。

■ヘルプカードのイメージ

青木　信哉 議員

問 子ども会の役割は

答 地域の中で社会性を身につける場

子ども会の育成を

問 第5次武豊町総合計画・後期戦略プランや武豊町子ども・子育て支援事業計画の中で、「子ども会の育成」とあるが、どのような支援を考えているか。

答 町長 子ども会育成連絡協議会への補助金交付や子ども会が実施している廃品回収に対する報奨金、加入募集チラシの配布などを行っている。

問 子ども会の団体数と会員数の推移は。

答 厚生部長 平成22年度の15団体909名から平成26年度13団体632名となっている。

問 子ども会の役割は。

答 厚生部長 異年齢の子どもたちが、遊びを通して地域の中で社会性を身につける場所である。

問 会員募集に対する協力体制は。

答 厚生部長 新1年生入学説明会での加入募集チラシの配布をお願いしている。27年度は、4月15日号の広報に募集案内を掲載予定。

問 町から支援している廃品回収報奨金の見直しは。

答 厚生部長 平成26年度の268万円を、平成23年度時の報奨金まで、約3割程度増やす予定である。

■子ども会パンフ

問 老人センター閉鎖には代替施設を

答 代替施設は検討中

梶田　進 議員

年間9000人の利用 老人センター廃止するな

問 老人福祉センターを廃止する理由は。

答 厚生部長 築後36年を経て、施設の老朽化が進み、設備修繕など、維持管理に要する経費の増大が見込まれること、高齢者のニーズが多様化したことで利用者が減少傾向にあることから、廃止するものである。

問 利用者によれば、センターの場所は総合的にいい場所で、静かで、風呂があり、将棋・囲碁、カラオケ、自然公園の散策もできるということから利用されている。

利用できる代替施設を整えてから廃止すべきではないか。

答 副町長 利用者の多くが常連さんで、新規の人は増えていない。代替施設としては、中央公民館、いきがいセンター、老人憩の家などを考えている。

問 利用者の意見はどうか。

答 厚生部長 センターの閉鎖により、通える場所がなくなることについて、不安に感じておられるとの意見が届いている。

また、センターの存続や新たな施設の設置を希望する意見や運営についての提案が届いている。

※他に「ちびっこ広場・公園の維持管理、公園緑地整備事業について」の質問。

■老人福祉センター

問 児童クラブ「小4の壁」をなくして

答 平成29年度から受け入れ予定

本村　強 議員

平成27年4月から「子ども・子育て支援新制度」がスタートする。

平成31年度までに、放課後児童クラブも支援の拡充や質の向上を進めていくことになる。

児童クラブのニーズは高い

問 応募状況は。

答 厚生部長 定員200人に対して、230人の応募。（詳細は別表）

問 現在3年生までの受け入れだが、これから6年生までの受け入れをすることになる。

その受け入れ態勢は。

答 厚生部長 現状では低学年の待機児童が出ているので、今すぐにはできない。

平成29年度からの受け入れを計画している。

問 平成27年度は60人近くの4年生待機児童が出ることになるが、受け入れの前倒しはできないか。

答 厚生部長 空き教室、指導員の確保などの課題があるが、クリアできれば、可能性はないわけではない。

※他に「学校での防寒対策」、「平成27年度予算」の質問。

■児童クラブ応募状況　（12月末現在）

クラブ名	H26定員	応募者	H27定員	受入れ	待機児童
武　豊	60	64	60	64	0
緑ケ丘	60	61	60	61	0
衣　浦	40	57	50	50	7
富　貴	40	48	40	46	2
計	200	230	210	221	9
1年生				89	
2年生				72	
3年生				60	

小寺　岸子 議員

問 障がい者授産品の販売促進事業を
答 事業者の意向を聞き、検討する

授産品の販売促進を

問 所管が事業として実施する「障がい者授産品の販売」を役場ロビー及び敷地内で実施できないか。

答 総務部長 担当課が事業として実施する場合は、利用は可能と考えられるが、役場ロビーはせまく、調整が必要である。

答 厚生部長 町内事業者の意向を聞き、先進事例の調査研究をし、検討する。

障がい者に配慮したがん検診を

問 身体状況によって、指定医療機関での検診ができない場合がある。検診が受けられるように、個別の対応をお願いしたい。

答 厚生部長 指定医療機関での検診設備では対応が難しい場合があるが、検診が受けられるよう配慮する。体に不自由がある方で検診を希望される場合は、事前に保健センターに相談を。

児童クラブの選考見直しを

問 新1年生が待機者とならないよう優先的に受け入れる配慮ができないか。

答 厚生部長 平成27年度、選考基準の見直しを検討する。

※他に「職員の日当の廃止」、「スマイルマラソンでの事故対策の強化」、「障害者就労施設等からの物品等の調達方針」の質問。

■春日井市販売促進事業「元気ショップ」

住民の声

健康であることの秘訣は、グラウンドゴルフ
「家庭円満、あたりまえのしあわせ」

青木孝憲さん（82歳）

Q 元気の源はなんですか。

A 仕事を辞めて10年、現在は3つの団体に所属して、週5日はグラウンドゴルフをしています。

グラウンドゴルフは、打つ前の緊張感と打った後のリラックスがとてもいい。

スコアーがいいと嬉しいし、ホールインワンをすると景品がもらえ、これが家庭円満の秘訣にもなっています。

もう一つは、「お寺さん詣りの会」に入り、お詣りにお経を納めるため、写経を始め、今は1日1枚が日課となっています。

Q 町政に思うことをお聞かせください。

A 高齢者の立場からいえば、福祉も医療も大切ですが、ペタンクやグラウンドゴルフなど、運動と交流の場の充実もお願いしたいです。

また、最近の憩いのサロンの充実には拍手です。

もう一つは、「武豊町で子育てしたい」といわれる町になってほしい。そのために、保育や教育でも信頼される施策により、若い世代が活気ある暮らしができる町を作っていただきたいと思います。